

令和元年度 相楽園の管理運営に対する評価票

1. 施設概要、指定管理者等

(1)施設概要(設置目的、施設内容)	本市公園のうち、唯一の近代日本式庭園。面積1.4ha
(2)指定管理者	神戸市造園協会・神戸市公園緑化協会グループ
(3)指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
(4)市支出額 ※円単位で記入	協定締結額:40,686,481円 決算額:40,658,981円(精算額:△27,500円)

2. 管理運営内容

(1)管理実施状況		元年度の状況
①施設の維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 本市唯一の近代日本式庭園にふさわしい植栽管理(クロマツの剪定、和の植栽などに配慮) 施設及び設備の保守点検、修繕、清掃、備品管理等 	
②施設の運営業務	<ul style="list-style-type: none"> 施設の総合的なマネジメント、入園料の徴収、イベント等の実施による公園の活性化 営業時間 9時～17時(イベント時は夜間開園あり) 木曜日は休園 つつじ遊山期間(毎年4月下旬～5月初旬)、菊花展期間(10月下旬～11月下旬)は無休 	
③その他の業務	<ul style="list-style-type: none"> 自販機、イベント時屋台・模擬店の設置 	
(2)利用状況		元年度の状況
①施設利用状況	入園者数 113,957人(対前年度比109%)、30年度 104,109人、29年度 96,466人	
②その他利用状況	4/20-5/6つつじ遊山(23,127人)、8/31-9/1にわのあかり(2,801人)、10/20-11/23菊花展(26,935人)	
(3)収支状況		元年度の状況
①使用料または利用料金収入	入園料:16,537千円(対前年度比122%)、30年度 13,550千円、29年度 11,871千円	
②指定管理者の収支状況	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理部分 収入40,659千円 費用45,826千円 差引△5,167千円 収益事業部分 収入5,375千円 費用1,381千円 差引3,994千円 	

3. 主な提案内容と達成状況(再掲)

	提案内容(目標値など)	達成状況
①利用者数または利用率	目標入園者数 78,000人	入園者数実績 113,957人(対目標比146%) (うち有料入園者数 66,526人)
②収入目標額	目標収入額 9,300千円	入園料実績 16,537千円(対目標比178%)
③その他新たなサービス	<p>指定管理者による提案及び実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> つつじ遊山(23,127人)、菊花展(26,935人) 庭園内の建物を活用したイベント等の開催(相楽園大学、展覧会、コンサート、茶席等) 庭園を楽しむ季節の行事の開催(七夕、夕涼み、紅葉、ライトアップ、冬ぼたん、庭園観賞会等) 相楽園会館、神戸山手大学、NPO、学校、市民等の連携(にわのあかり、お茶会、展覧会等のイベント) 景観を構成する重要な樹種(ツツジ、クロマツ、ソテツ)の健全な管理 文化財の景観に配慮した植栽管理(正門アプローチ正面、和風飾花等) 大型デジタルサイネージの本格導入等アナログ・デジタル媒体を活用した積極的な広報 <p>提案外で行った、特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 枯れ枝が目立ってきた大クスノキの剪定及び専門的知見を駆使した樹勢回復の取り組み 安全性と文化財保護に配慮した植栽及び施設管理(文化財建築物・塀周囲等) 	
④その他	元年度の状況	
行動指針に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ①日本庭園の文化を継承し、高度な植物管理技術による庭園管理を行う。 →専門家の高度な技術による安定した植栽管理、庭園景観の形成 ②魅力あるプログラムと効果的なプロモーションによる来園者の増加と顧客満足度の向上 →庭園を楽しむ四季の行事(菊、つつじ等)や地域との協働によるイベントの開催等 	

4. 利用者の満足度調査等

		元年度の状況
①満足度調査の実施内容	アンケートの実施 令和2年1月～2月 アンケート回収数 200件 (平成30年 202件)	
②満足度調査の結果	満足 151名 普通 41名 不満 1名 不明 7名 満足度{「満足」×2+「普通」×1}÷{「満足」+「普通」+「不満」}×100÷2⇒ 89%(H30:95%)	
③利用者からの主な苦情、意見とそれへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 池をきれいにしてほしい。→循環措置の改修を検討中。 ハッサム邸が公開している時期を教えてください。→施設HPにて公開スケジュールを掲載。 	

5. 選定評価委員会の評価

管理運営に対する総合評価	●AAA ○AA ○A ○B ○C
所見	<p>国の登録文化財である神戸唯一の近代日本庭園として、植物管理では専門家組織が管理する利点を活かし、景観の主要素であるマツや大クスの樹勢などに配慮した管理方法を臨機に検討・採用している。また、植物資源を活かした春秋の期間イベントや、重要文化財建造物や茶室を活用した多様なプログラムなどの提案内容を着実に実施した結果、入園者数・入園料収入ともに目標を大きく上回っていることは大いに評価できる。</p> <p>広報面においては、見どころとなる花の開花状況を見極め、多様な客層に向けたアナログ・デジタル両面の媒体でのきめ細やかな広報に努め、新聞などのメディアにも多く取り上げられ集客につながった。引き続き、指定管理者が持つ専門性を十分に活かして、庭園としての価値を追求し、園の将来像を見据えた中長期的な視点で園地管理に取り組むとともに、入園料等結果につながりつつある相楽園会館(The Sorakuen)との連携事業の展開、国内広域需要の掘り起こしなど、新たな入園者獲得(特に平時や有料入園者数の増加)に努められたい。</p>

令和元年度 離宮公園の管理運営に対する評価票

1. 施設概要、指定管理者等

(1)施設概要(設置目的、施設内容)	豊かな緑、四季に変化する多くの花木、恵まれた眺望や変化に富んだ造形美を生かし、潤いと安らぎのある市民の憩いの場をめざす 面積82.6ha 施設・修景的緑地・自然林・造成林・駐車場等
(2)指定管理者	神戸市公園緑化協会・神戸市造園協会グループ
(3)指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
(4)市支出額 ※円単位で記入	協定締結額:183,612,962円 決算額:180,902,440円(精算額:△2,710,522円) ※協定・決算額は当初提案額から、派遣職員人件費(協定25,000,000円、決算30,471,299円)を差引いたもの

2. 管理運営内容

(1)管理実施状況	元年度の状況
①施設の維持管理業務	・公園の景観や修景に配慮した植栽管理を行い、本公園の特徴である「バラ園」を充実 ・施設・設備の保守点検、修繕、清掃、備品管理等
②施設の運営業務	・施設の総合的なマネジメント、入園料の徴収、イベント等の実施による公園の活性化 ・営業時間 9時～17時 木曜日は休園(イベント時等は臨時・夜間開園あり)
③その他の業務	・レストハウス(レストラン)「ガーデンパタジェ」、臨時売店、駐車場、和室
(2)利用状況	元年度の状況
①施設利用状況	・入園者数 308,207人(対前年度比108%)、30年度 286,023人、29年度 297,484人、
②その他利用状況	・春のローズフェス77,816人、秋のローズフェス27,786人
(3)収支状況	元年度の状況
①使用料または利用料金収入	入園料:51,589千円(対前年度比111%)、30年度 46,321千円、29年度 46,876千円、
②指定管理者の収支状況	・指定管理部分 収入180,902千円 費用196,077千円 差引△15,175千円 ・収益事業部分 収入43,252千円 費用 26,510千円 差引16,742千円

3. 主な提案内容と達成状況(再掲)

	提案内容(目標値など)	達成状況
①利用者数または利用率	目標入園者数 282,000人	入園者数実績 308,207人(対目標比109%) (うち有料入園者数 151,332人)
②収入目標額	目標収入額 42,000千円	入園料実績 51,589千円(対目標比123%)
③その他新たなサービス	指定管理者による提案及び実施状況 ・春・秋ローズフェスティバルの開催 105,602人 (H30年度94,935人) ・ボタン・花しょうぶ・もみじ鑑賞会・梅見会684,722人 (H30年度83,636人) ・季節ごとの開花に合わせたきめ細やかな植物管理と、植物を活かした企画展示の実施 ・多様なイベント開催(改元記念武庫離宮展、Rikyuライブ、ホラーな植物展、フレル!、月見の宴 等) ・神戸女子大学CP連携事業(ゼミ学習の開始、語りの宴、バルーンアート、イベントボランティア 等) ・新レストラン事業者との連携による園のイメージ向上及び新たな客層の取り込み ・HPリニューアルとスマートフォン対応化、インスタグラム広告掲出など積極的な広報の展開 ・老舗和菓子メーカーと連携した新たな土産品(ゴーフル)の開発・販売 ・園内産蜂蜜「Rikyu Honey」を活用した新たな連携(神戸女子大や和菓子業界団体との共同開発等) 提案外で行った、特筆すべき ・市補助事業(経済観光局)を活用したキッチンカーの来店による利便性向上	
④その他		元年度の状況
行動指針に対する対応		①四季折々の開花や紅葉等、植物を楽しめる運営管理及びバラ園の充実、普及・啓発に努める。 →季節ごとの開花に合わせたきめ細やかな植物管理と、植物を活かした企画展示の実施 ②レストラン等の魅力アップや活用、利用者へのサービス向上に努める。 →新レストランのオープンによる新たな顧客層の取り込み及び連携事業の展開

4. 利用者の満足度調査等

	元年度の状況
①満足度調査の実施内容	アンケートの実施 令和2年1月～2月 アンケート回収数 200件 (平成30年 205件)
②満足度調査の結果	満足 143名 普通 43名 不満 1名 不明 13名 満足度{(「満足」×2+「普通」×1)÷(「満足」+「普通」+「不満」)}×100÷2⇒ 88%(H30:89%)
③利用者からの主な苦情、意見とそれへの対応	・レストランが混雑している。→混雑緩和のため、ビュッフェからワンプレート形式に変更したほか、テイクアウトやサテライト店舗を開設。また、キッチンカーも来店予定。

5. 選定評価委員会の評価

管理運営に対する総合評価	●AAA ○AA ○A ○B ○C
所見	指定管理者の専門性を活かし、関西随一のバラ園としての魅力向上をはじめ、園内各エリアで次々に見頃を迎える花のきめ細やかな管理、剪定、補植などの景観整備を中長期的な視点で行った。 運営面では春秋の定例イベントやファミリー向けを含め多様なイベントを企画・実施するほか、近隣大学との新たな連携体制、ビジネスパートナーとの連携事業など、提案内容を着実に実施した結果、入園者数・入園料収入ともに目標及び前年を上回っている。特に、新レストランとの連携により、新たな顧客層の訴求につながり、有料入園者数の大幅な増加に寄与した点は大いに評価できる。 また、養蜂事業についても、近隣大学や和菓子業界団体と協働で商品開発に取り組むなど、新たな連携につながっている。 今後も、園の本質である庭園景観の向上を図り、「緑地改善計画」に則し中長期的展望に基づいた安定的な園地管理を行うとともに、新レストランや養蜂などの新しいコンテンツを活かした取り組み等により、園の魅力創出及び新たな入園者獲得(特に有料入園者数の増加)に努められたい。

令和元年度 森林植物園の管理運営に対する評価票

1. 施設概要、指定管理者等

(1)施設概要(設置目的、施設内容)	六甲山の山なみと自然を背景に、端正な樹形をした針葉樹を林として植栽し、四季を彩る落葉樹や花木をそえる樹木植物園として、博物館相当施設・社会教育施設の役割を果たす。 面積142.6ha 施設・修景的緑地・自然林・造成林・駐車場等
(2)指定管理者	公益財団法人神戸市公園緑化協会
(3)指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
(4)市支出額 ※円単位で記入	協定締結額:174,500,000円 決算額:167,269,286円(精算額:△7,230,714円) ※協定・決算額は当初提案額から、派遣職員人件費(協定20,000,000、決算27,269,618円)を差引いたもの

2. 管理運営内容

(1)管理実施状況	元年度の状況	
①施設の維持管理業務	・森林植物園の趣旨にもとづいた植栽・樹林管理、園地管理 ・施設及び設備の保守点検、修繕、清掃、備品管理等	
②施設の運営業務	・施設の総合的なマネジメント、入園料の徴収、イベント等の実施による公園の活性化 ・営業時間 9時～17時 水曜日は休園(イベント時は臨時・夜間開園あり)	
③その他の業務	・食堂・休憩所、売店、駐車場、自販機	
(2)利用状況	元年度の状況	
①施設利用状況	入園者数 214,452人(対前年度比101%)、30年度 213,445人、29年度 228,659人	
②その他利用状況	三大散策会(つつじ・しゃくなげ 20,597人)(あじさい 51,043人)(もみじ 67,582人)	
(3)収支状況	元年度の状況	
①使用料または利用料金収入	入園料:28,967千円(対前年度比101%)、30年度 28,676千円、29年度 29,465千円	
②指定管理者の収支状況	・指定管理部分 収入167,269千円 費用178,991千円 差引△11,722千円 ・収益事業部分 収入 31,069千円 費用 24,630千円 差引 6,439千円	

3. 主な提案内容と達成状況(再掲)

	提案内容(目標値など)	達成状況				
①利用者数または利用率	目標入園者数 225,000人	入園者数実績 214,452人(対目標比95%) (うち有料入園者数 113,279人)				
②収入目標額	目標収入額 30,000千円	入園料実績 28,967千円(対目標比97%)				
③その他新たなサービス	<table border="1"> <tr> <td>指定管理者による提案及び実施状況</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・三大散策会(つつじ・しゃくなげ、あじさい、もみじ)139,222人(30年度136,098人) ・季節の見所となる植物の適切な管理(つつじ、しゃくなげ、あじさい等)、健全な森林に向けた植物管理(ナラ枯れ、マツ枯れ対応等) ・新たな植物景観創出のための新規植栽及び環境改善(アナベル、ドウダンつつじ、被圧木間伐等) ・植物園の特性を活かしたプログラムの充実(企画展、生体展示、栗樹観察会、視覚障害者との野鳥観察等) ・多様なターゲットに向けたイベントの充実(親子バードウォッチング、森のラッキータイム、アウトドアフェスタ、ナイトハイク等) </td> </tr> <tr> <td>提案外で行った、特筆すべき事項</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーに配慮した園路補修(休憩所及びトイレのアプローチ等) ・新型コロナウイルス感染拡大期における児童等の受皿となる子どもの居場所づくりの取り組み ・大学と連携した新たな遊具の方向性の検討 </td> </tr> </table>	指定管理者による提案及び実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・三大散策会(つつじ・しゃくなげ、あじさい、もみじ)139,222人(30年度136,098人) ・季節の見所となる植物の適切な管理(つつじ、しゃくなげ、あじさい等)、健全な森林に向けた植物管理(ナラ枯れ、マツ枯れ対応等) ・新たな植物景観創出のための新規植栽及び環境改善(アナベル、ドウダンつつじ、被圧木間伐等) ・植物園の特性を活かしたプログラムの充実(企画展、生体展示、栗樹観察会、視覚障害者との野鳥観察等) ・多様なターゲットに向けたイベントの充実(親子バードウォッチング、森のラッキータイム、アウトドアフェスタ、ナイトハイク等) 	提案外で行った、特筆すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーに配慮した園路補修(休憩所及びトイレのアプローチ等) ・新型コロナウイルス感染拡大期における児童等の受皿となる子どもの居場所づくりの取り組み ・大学と連携した新たな遊具の方向性の検討 	
指定管理者による提案及び実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・三大散策会(つつじ・しゃくなげ、あじさい、もみじ)139,222人(30年度136,098人) ・季節の見所となる植物の適切な管理(つつじ、しゃくなげ、あじさい等)、健全な森林に向けた植物管理(ナラ枯れ、マツ枯れ対応等) ・新たな植物景観創出のための新規植栽及び環境改善(アナベル、ドウダンつつじ、被圧木間伐等) ・植物園の特性を活かしたプログラムの充実(企画展、生体展示、栗樹観察会、視覚障害者との野鳥観察等) ・多様なターゲットに向けたイベントの充実(親子バードウォッチング、森のラッキータイム、アウトドアフェスタ、ナイトハイク等) 					
提案外で行った、特筆すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーに配慮した園路補修(休憩所及びトイレのアプローチ等) ・新型コロナウイルス感染拡大期における児童等の受皿となる子どもの居場所づくりの取り組み ・大学と連携した新たな遊具の方向性の検討 					
④その他	元年度の状況					
行動指針に対する対応	①森林の生態系を維持していくため、長期的な視点で策定された展示林保全管理年次別計画に基づいた園地管理 →季節の見所となる植物の適切な管理(つつじ、しゃくなげ、あじさい等)、健全な森林に向けた植物管理(ナラ枯れ、マツ枯れ対応等) ②魅力あるプログラムと効果的なプロモーションにより、来園者の増加と顧客満足度の向上に努める。 →植物園の特性を活かした各種プログラムや多様なイベントの実施					

4. 利用者の満足度調査等

	元年度の状況	
①満足度調査の実施内容	アンケートの実施 令和2年1月～2月 アンケート回収数 200件 (平成30年 202件)	
②満足度調査の結果	満足 154名 普通 42名 不満 0名 不明 4名 満足度{「満足」×2+「普通」×1}÷(「満足」+「普通」+「不満」)×100÷2 ⇒ 89%(H30:92%)	
③利用者からの主な苦情、意見とそれへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外で飲食できるようテイクアウトをしてほしい。→新型コロナ対応を含め、R2.6月よりテイクアウトを開始 ・パンフレットにバス乗り場を記載してほしい。→HPのほか、パンフへの掲載を検討。 	

5. 選定評価委員会の評価

管理運営に対する総合評価	○AAA ○AA ●A ○B ○C
所見	季節ごとの散策イベントや主要な見どころとなる植物の管理、新たな見どころ創出のための環境改善等を適切に実施し、博物館相当施設として植物や森林に生息する動物の特性を把握した展示により森林文化を発信するなど、提案内容を臨機応変に工夫しながら着実に実施した。 また、多様な世代が自然に触れ合う機会を増やすための取り組みを展開し、とりわけ、3月には新型コロナウイルス感染症拡大により学校が休校となる中、子供向けのプログラムの継続的な実施により、多くの子どもたちに貴重な居場所を提供できた点は評価できる。 さらに、健康をテーマに園内の地形や植物などの自然環境を活かす企画等により入園者の獲得に努めた。 今後も引き続き中長期的な視点で自然を生かした森林景観創出の取り組みを行うとともに、市民が安心してくつろげる貴重な空間としての価値を高め、新たな入園者獲得(特に有料入園者数の増加)に努められたい。